

第129期 中間報告書

自 平成22年4月1日 → 至 平成22年9月30日


日本冶金工業株式会社
(<http://www.nyk.co.jp/>)
証券コード 5480




日本冶金工業株式会社

【連結データ】

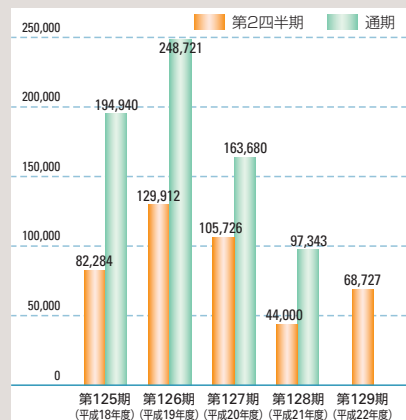
【表記に関する注記】

※ 本中間報告書における収益関連数値につきましては、期初からの「累計値」を用いています。したがって、「第2四半期」と表記されている数値は、当該期における第1四半期（4/1～6/30）と第2四半期（7/1～9/30）との合計値を意味します。

※ 本中間報告書における決算数値につきましては、原則としてそれぞれ百万円未満を四捨五入した上で表記しております。したがって、例えばP1「財務ハイライト」の各期（各年度）ごとの売上高数値と、P3「②売上高の推移」の各期（各年度）ごとの売上高数値とは本来同一のもので、後者は国内・輸出売上高の百万円未満をそれぞれ四捨五入した後に合計していることから、前者との数値の間に一部相違が生じる場合があります。また、各財務諸表上も、各科目を加算した値と「合計」値とが必ずしも一致しない場合があります。

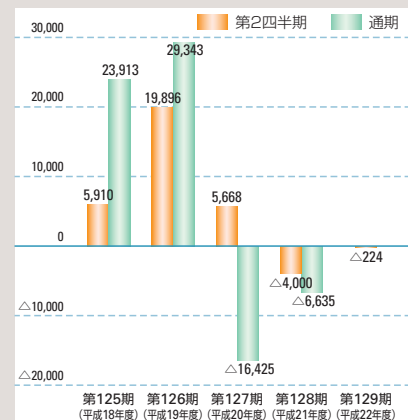
売上高

(単位：百万円)



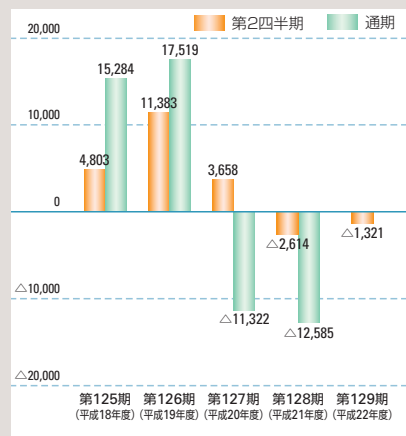
経常利益（△損失）

(単位：百万円)



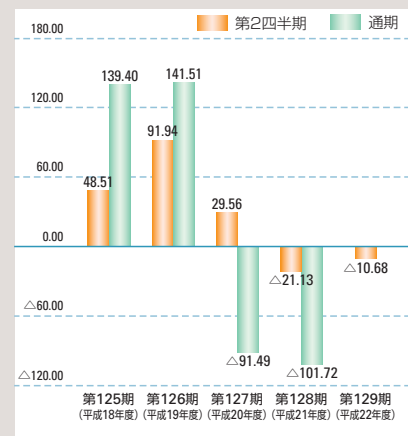
当期純利益（△損失）

(単位：百万円)



1株当たり当期純利益（△損失）

(単位：円)



目次

財務ハイライト.....1
 株主の皆様へ.....2
 事業概況.....3
 連結財務諸表.....5
 会社の概要.....7
 製品紹介.....8



代表取締役社長

杉森一太

株主の皆様にはますますご清栄のこととおよこび申し上げます。

第129期の中間報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当上半期におけるステンレス特殊鋼業界におきましては、当初は主原料であるニッケル価格の上昇傾向に市場が反応し、仮需も含みつつ活況を見せ始めたものの、5月連休明けにニッケル価格が急落したのを契機に、市場は縮小方向へと向いました。

市中在庫につきましても、従来の見方に基づけば適正水準以下の数量でありながら、低迷する需要に加え、ニッケル価格の下落による在庫評価損リスク回避の思惑から、流通部門による発注も手控え状態が続き、頼みの海外におきましても、8月以降の急激な円高の進行により、輸出の採算性は極めて厳しい状況となりました。

当社グループにおきましては、販売量こそリーマンショック前の平成20年度上期レベル付近にまで回復したものの、原料価格上昇に対する販売価格のキャッチアップが不十分であったため、第1四半期の段階では収益確保には至らず、損失計上となりましたが、6月以降はニッケル価格の回復傾向の流れも受けて販売価格の改善が徐々に進み、黒字基調にて推移した結果、第2四半期（7～9月）期間では経常利益を確保するにまで至りました。

しかしながら、上半期全体での経常損益および最終損益につきましては、上半期前半のマイナスが大きく影響した

こともあり、遺憾ながら赤字決算となりました。このような厳しい収支状況から、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、中間配当を見送らせていただくことといたしました。

今後の景気動向につきましては、持ち直しの期待感と下振れの懸念とが交錯し、不透明感が一層増している状況にあります。

そのような中、当社グループにおきましては、景気の回復を待つという受身の姿勢ではなく、まずは需要をしっかりと捕捉して販売量を確保することが肝要であると考えます。その一環として、新たに米国に現地法人を開設する準備を進めており、既設の駐在員事務所も合わせた海外ネットワークにより世界の市場をすべてカバーできる体制の整備を図ってまいります。

その上で、生産面においては原料コストの改善を図るべく、フェロニッケル競争力強化プロジェクトとして、ニッケル鉱石の品位・性状・輸入先の多様化に応じ、自社の製錬技術に更なる工夫を加えることによって生産性を向上させる取り組みを実施いたします。また、工場の生産性と収益性の最適化を目指したプロダクトミックス（生產品目の種類・数量の組み合わせ）に柔軟性を持たせることを視野に入れた新たな設備投資も検討してまいります。

ステンレス特殊鋼業界におきましては、今後も原料価格や景気動向により需要が大きく変動することが予想されますが、いかなる環境下にあっても迅速かつ柔軟に対応しうる運営体制および特徴ある製品群により当社グループは市場に貢献し続けることを希求してまいり所存でありますので、株主の皆様におかれましては、なにとぞ絶大なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月

① 概況

当社が重点分野として位置づけている高機能材につきましては、エネルギー・環境関連分野向けの高耐熱鋼・高耐食鋼を中心に需要拡大に取り組んでまいりました。設備投資分野の緩やかな持ち直し傾向を受け、シーズヒーター用の高耐食・耐熱材料が堅調に推移し、苛性ソーダプラント向けの純ニッケル材も回復基調にあることにより、売上高は前年同期比112.0%増の180億25百万円となりました。

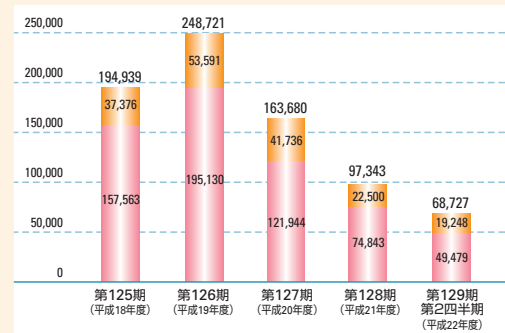
ステンレス鋼板につきましては、政府の景気対策による好影響を受けた自動車および家電関係を除く需要分野全般の回復動向が低調に推移したものの、販売数量・販売単価がやや改善した結果、売上高は前年同期比62.6%増の382億55百万円となりました。

なお、連結売上高687億27百万円のうち、国内売上高は494億79百万円、輸出売上高は192億48百万円となっております。

② 売上高の推移

■ 売上高（連結）

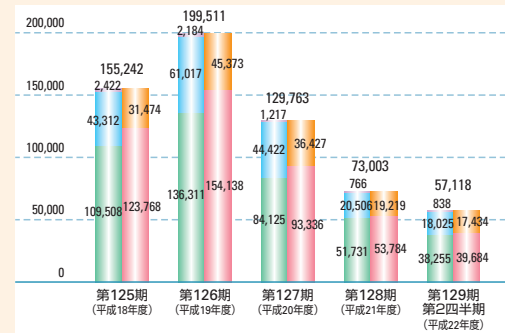
(単位：百万円)



■ うち国内 ■ うち輸出

■ 売上高（単体）

(単位：百万円)



■ ステンレス鋼板 ■ 高機能材 ■ その他 ■ うち国内 ■ うち輸出

③ 当社売上高内訳表

区 分		第128期第2四半期(A)	第129期第2四半期(B)	前年同期比 (B/A)
高 機 能 材	販売量 千 t	12.0	19.5	163.1%
	売上高 百万円	8,502	18,025	212.0%
ステンレス鋼板	販売量 千 t	89.2	124.4	139.4%
	売上高 百万円	23,531	38,255	162.6%
そ の 他	売上高 百万円	333	838	251.9%
合 計	売上高 百万円	32,366	57,118	176.5%
う ち 輸 出	売上高 百万円	8,500	17,434	205.1%

④ 重要な子会社の状況

平成22年9月30日現在

会社名	資本金 百万円	出資比率 (注1) %	主要な事業内容
ナストーア株式会社	1,200	100.00	ステンレス鋼管および加工品、電気溶接機の製造販売
ナス鋼帯株式会社	682	86.80	ステンレス磨帯鋼製造ならびに販売
ナス物産株式会社	560	98.21	ステンレス鋼、特殊鋼および加工品の販売ならびに加工
クリーンメタル株式会社	200	100.00	ステンレス鋼、特殊鋼および加工品の販売ならびに加工
ナスクリエート株式会社	90	100.00	ステンレス製品梱包用資材の販売、梱包作業および損害保険代理業
ナスエンジニアリング株式会社	102	86.62	ステンレス鋼精整加工および設備設置工事
カヤ興産株式会社(注2)	20	99.99 (注3)	運送業、機械修理業、ナスサンド(加工砂)販売
宮津港運株式会社	32	100.00	港湾運送業、通関業
NAS TOA (THAILAND) CO.,LTD.	千バーツ	86.67	ステンレス鋼管および加工品の製造販売

(注1) 出資比率には間接所有の株式が含まれております。

(注2) カヤ興産(株)につきましては、平成23年4月1日付で宮津港運(株)を存続会社とする吸収合併が予定されております。

(注3) カヤ興産(株)に対する当社の出資比率は平成22年10月1日付で100%となっております。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

科目	当第2四半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	61,410	55,535
現金及び預金	6,710	7,330
受取手形及び売掛金	23,197	19,993
商品及び製品	7,320	6,592
仕掛品	13,121	12,226
原材料及び貯蔵品	10,216	7,118
その他	1,434	2,841
貸倒引当金	▲ 587	▲ 565
固定資産	85,941	87,399
有形固定資産	77,369	78,123
建物及び構築物	15,057	15,443
機械装置及び運搬具	20,575	20,836
土地	40,179	40,198
その他	1,558	1,646
無形固定資産	1,597	1,738
投資その他の資産	6,974	7,539
投資有価証券	4,913	5,460
その他	2,143	2,148
貸倒引当金	▲ 81	▲ 69
資産合計	147,351	142,934

POINT 流動資産

売上高の増加により受取手形及び売掛金が前期末比約32億円増加しております。
また、生産量の回復によりたな卸資産（「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」の合計）が前期末比約47億円増加しております。

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	58,597	54,502
支払手形及び買掛金	18,660	17,606
短期借入金	27,236	25,668
1年内返済予定の長期借入金	7,392	6,373
未払法人税等	396	468
賞与引当金	847	849
その他	4,067	3,538
固定負債	46,603	44,427
退職給付引当金	9,343	9,296
その他	7,861	7,310
負債合計	105,200	98,929
(純資産の部)		
株主資本	39,177	40,500
資本金	22,251	22,251
資本剰余金	7,492	7,492
利益剰余金	9,565	10,888
自己株式	▲ 131	▲ 130
評価・換算差額等	2,439	2,923
その他有価証券評価差額金	404	889
土地再評価差額金	2,061	2,059
為替換算調整勘定	▲ 26	▲ 25
少数株主持分	535	581
純資産合計	42,151	44,005
負債純資産合計	147,351	142,934

(注記)	当第2四半期末	前期末
保証債務額	93	108
受取手形割引高	1,603	1,651
受取手形裏書譲渡高	510	372

POINT 有利子負債

長短合わせた借入金総額は、前期末比約42億円増加しております。

POINT 純資産

当第2四半期末における自己資本比率は28.2%となりました。

四半期連結損益計算書

科目	当第2四半期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	前第2四半期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日
売上高	68,727	44,000
売上原価	62,809	41,640
販売費及び一般管理費	5,434	5,573
営業利益又は営業損失(▲)	483	▲ 3,213
営業外収益	186	235
受取利息及び配当金	88	83
その他	98	151
営業外費用	894	1,022
支払利息	631	620
その他	263	401
経常損失(▲)	▲ 224	▲ 4,000
特別利益	43	82
特別損失	43	314
税金等調整前四半期純損失(▲)	▲ 224	▲ 4,232
法人税等	1,051	▲ 1,607
少数株主損益調整前四半期純損失(▲)	▲ 1,275	—
少数株主利益又は少数株主損失(▲)	46	▲ 10
四半期純損失(▲)	▲ 1,321	▲ 2,614

(注記) 当第2四半期 前第2四半期
1株当たり四半期純損失(▲) ▲10.68 ▲21.13

POINT 売上高及び営業損益

ステンレス特殊鋼業界におきましては、堅調な経済発展を続ける中国や東南アジア諸国等の海外市場を中心に概ね堅調に推移いたしましたが、8月から急激に進行した円高が輸出採算を圧迫するとともに、国内景気全般に影を落とし、ステンレス特殊鋼需要も停滞感を余儀なくされる結果となりました。一方、主原料であるニッケル相場は、底堅い需要に加えて投機的な動きもあり、8ドル台から徐々に値を上げて、期間後半には10ドル台を推移する動きとなりました。このような経営環境下において、当社グループといたしましては原料価格に見合う販売価格の形成と更なる製造コスト削減を優先課題として取り組んでまいりました。
その結果、売上高は前年同期比56.2%増と大幅増収を達成し、また各種コスト削減策により営業利益は前年同期比約37億円増となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当第2四半期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	前第2四半期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,242	1,235
税金等調整前四半期純損失(▲)	▲ 224	▲ 4,232
減価償却費	2,860	2,833
たな卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 4,721	420
売上債権の増減額(▲は増加)	▲ 3,204	1,525
仕入債務の増減額(▲は減少)	1,054	▲ 1,543
退職給付引当金の増減額(▲は減少)	47	▲ 57
法人税等の支払額又は還付額(▲は支払)	▲ 353	2,092
その他	1,299	197
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,037	▲ 1,171
有形・無形固定資産取得による支出	▲ 1,261	▲ 1,361
その他	224	190
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,883	1,618
短期借入金の純増減額(▲は減少)	1,572	▲ 8,806
長期借入れによる収入	5,790	14,200
長期借入金の返済による支出	▲ 3,194	▲ 3,355
配当金の支払額	—	▲ 371
少数株主への配当金の支払額	▲ 11	▲ 1
その他	▲ 274	▲ 49
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 1	12
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	▲ 397	1,694
現金及び現金同等物の期首残高	6,870	7,803
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,473	9,497

役員

平成22年9月30日現在

代表取締役社長	杉森一太
代表取締役副社長	木村始
常務取締役	野中章男
常務取締役	諸岡道雄
常務取締役	笹山眞一
常務取締役	久保田尚志
取締役相談役	佐治雍一
取締役	山崎重信
取締役	坂一憲
取締役	中谷一真
取締役	橋之口正
常勤監査役	飯盛孝夫
常勤監査役	櫛木一男
監査役	内海久雄
監査役	田中速夫

(ご参考) 監査役のうち、櫛木一男および田中速夫の2氏は社外監査役であります。

会計監査人

平成22年9月30日現在

八重洲監査法人

国内拠点

平成22年9月30日現在

本社	東京都中央区京橋一丁目5番8号(三栄ビル) (☎104-8365) 電話 (03) 3272-1511
大阪支店	大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル) (☎541-0043) 電話 (06) 6222-5411
名古屋支店	名古屋市中区栄町二丁目3番6号(NBF名古屋広小路ビル) (☎460-0008) 電話 (052) 211-1102
九州支店	福岡市中央区天神一丁目15番6号(綾杉ビル) (☎810-0001) 電話 (092) 722-4170
広島支店	広島市中区紙屋町二丁目1番22号(広島興銀ビル) (☎730-0031) 電話 (082) 243-0039
新潟支店	新潟市中央区東大通一丁目4番2号(COI新潟ビル) (☎950-0087) 電話 (025) 247-9261
川崎製造所	川崎市川崎区小島町4番2号 (☎210-8558) 電話 (044) 271-3012
大江山製造所	京都府宮津市字須津413番地 (☎629-2251) 電話 (0772) 46-3121

海外事務所

平成22年9月30日現在

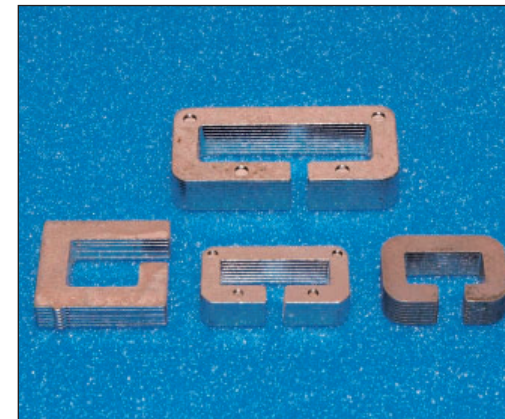
上海駐在員事務所

バンコク駐在員事務所

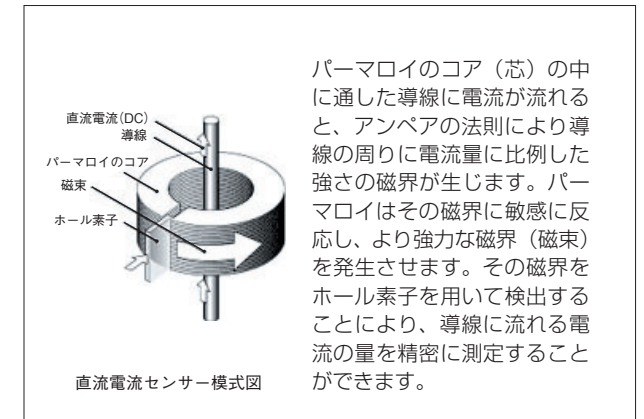
ロンドン駐在員事務所

(注) 香港駐在員事務所は本年9月末をもちまして閉鎖しております。

パーマロイ：軟磁性合金



電流センサー用パーマロイのコア(芯)



パーマロイのコア(芯)の中に通した導線に電流が流れると、アンペアの法則により導線の周りに電流量に比例した強さの磁界が生じます。パーマロイはその磁界に敏感に反応し、より強力な磁界(磁束)を発生させます。その磁界をホール素子を用いて検出することにより、導線に流れる電流の量を精密に測定することができます。

外部から磁場を加えた場合に容易に磁気を通しやすい性質を持つ合金を軟磁性合金と呼び、中でもパーマロイ(※)と呼ばれる鉄とニッケルの合金は、その軟磁性を極限にまで高めた素材として知られています。

※浸透的(=permeable)な合金(=alloy)という意味からパーマロイ(Permalloy)と呼ばれるようになりました。

パーマロイの重要な用途例としては直流電流センサーがあり(上記模式図参照)、ハイブリッド車や各種産業機器のモーター制御、充電機の電流制御など、大容量で高精度な直流電流制御が必要とされる分野において、今後も大きな需要の伸びが期待されています。

また、磁気を通しやすい性質の利用により、パーマロイで囲まれた空間には外部からの磁気が入らない(磁気はパーマロイの中だけを通り、空間内部には入り込まない)ようにすることができるため、近未来社会におけるリアモーターカーの磁場遮蔽など、磁気シールドとしての用途拡大も期待されています。

当社ではコア技術である高ニッケル合金の高度な精錬技術・組織均質化技術を活かし、良好な軟磁性を持つ素材を供給しています。

区分	当社製品名	化学成分(%)			
		ニッケル	クロム	モリブデン	銅
パーマロイ (軟磁性合金)	NAS PB	45.0~49.0	-	-	-
	NAS PC	75.0~78.0	0.30以下	3.0~4.5	4.0~6.0
一般材(汎用ステンレス)	NAS 304(SUS 304)	8.00~10.50	18.00~20.00	-	-

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (平日9:00~17:00)
上場金融商品取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行い、公告掲載場所は当社のホームページ (http://www.nyk.co.jp/) といたします。 ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

1. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問い合わせください。

お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別口座から一般口座への振替請求 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・住所、氏名等のご変更 ・特別口座の残高照会 ・配当金の受領方法の指定（※） 	特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 0120-232-711 (平日9:00~17:00)
<ul style="list-style-type: none"> ・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	株主名簿管理人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【お手続き用紙のご請求方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/ いずれも24時間受付 </div>

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例分配方式はお選びいただけません。

2. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式の各種お手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先	
<ul style="list-style-type: none"> ・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 0120-232-711 (平日9:00~17:00)
・上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。	